

# パウダーレスインキ「キレイナ」の実力 (広告)

## 17. インキの利点を引き出す姿勢〔亜細亜印刷〕

亜細亜印刷(株)(藤森英夫社長、長野・三輪荒屋、社員約90人)という、2011年の技能五輪ロンドン大会が記憶に新しい読者も多いだろう。印刷職種において、同社の伊東真規子氏が選手として、また大塚成二氏がエキスパートとして出場し、金メダルを獲得して一躍話題となった。

### 若手中心の現場

亜細亜印刷の本社と工場はJR新幹線の長野駅から車で15分ほどのところにある。工場の印刷設備は菊全判4色機、菊半裁判4色機、四六全判2色機の計3台。技能五輪の優勝企業というイメージからすると、意外とコンパクトな印象を受ける。しかしこのコンパクトさが、同社が経営理念として誇りとする「クオリティーとスピードとコスト」を重視したサービスを可能にしているのかもしれない。同社の建物内は整理整頓が行き届いており綺麗で、社員たちが連携しながら笑顔で生き活きと仕事をしている姿が印象的だ。とくに若い社員および女性社員が多いことも特徴で、生産現場も若手が中心となって動き、それを熟練のベテラン社員が支えている。

主力の印刷分野は専門書。国文学書や医学書、考古学書、仏教の本などで、これらの書物は旧漢字や梵字、ルビといった、作字や複雑な組版が必要となる。同社は、美しく読みやすい文字組みとその速さを武器にしており、組版設備を充実させているほか、社員教育も徹底して技術の継承を図っている。

### 水なし印刷でキレイナ

同社は印刷品質の向上とともに、環境配慮にも力を入れている。おもに小型本や書籍の表紙、チラシの印刷に活用している菊半裁判4色機では水なし印刷を行っている。以前よりスプレーパウダーを削減したいと考えていた同社は、そのインキとしてT&K TOKAの水なし印刷用パウダーレスインキ「ベストワンキレイナアルポ」を2016年春ごろから導入した。「キレイナアルポ」によって、パウダーの使用量が従来の半分に減り、印刷機の掃除も以前は一日に2回1時間かけて行っていたのが1回になったという。「パウダーの散布量を減らせること、そしてインキセットの速さがいいですね。刷り上がりから5~10分ほどでセットします。まだ重い絵柄では棒積みするとたまに裏付きすることもあります。使い方の工夫を考えています。メーカーが自信をもって市販する資材が悪いはずがない。それを使いこなせるよう学んで身につけるのもプロの仕事だと思っています」(大塚成二・印刷部長)。

もともと書籍印刷で多種多様な用紙を扱う経験



水なし印刷でキレイナアルポを使っている菊半裁判4色機。左から藤森英夫社長、オペレータの北沢利貴氏と早瀬真夏氏。北沢、早瀬の両氏は2017年の技能五輪国際大会の国内予選で一次を通過(2016年8月)。伊東氏に続く後進も育っている

から、同社の印刷現場は用紙やインキなどの材料への順応には慣れているという。有効な技術を貪欲に取り入れてモノにしていくという気概にあふれている。

### インキの扱いやすさ

水なし印刷では、一般的にインキが軟らかくなると地汚れが発生しやすくなる。逆にインキが硬すぎるとエッジピックや着肉不良が起こる。そのため、暑さでインキが軟らかくなりやすい夏と、寒さでインキが硬くなりやすい冬では、硬さの違うインキを使わなくてはならない場合がある。また、水なし印刷は、版面温度の上昇による地汚れに対応するために、硬めに設計されており、扱いづらいという点があった。

水なし印刷用のキレイナアルポは特殊樹脂と特殊ワニス効果により、従来の水なしインキに比べて軟調でも地汚れしにくく、着肉も良いため濃度管理もしやすい特長がある。

亜細亜印刷の印刷オペレータも、キレイナアルポは、同じ硬さのインキを一年中使えることが利点だと述べている。同社の印刷機には冷却装置(チラー)がないため、エアコンとサーキュレーターによる空冷でインキの温度を調節している。キレイナアルポの中で硬めのインキを採用しており、インキローラの温度をある温度以下に保てば、

夏でも冬でも同じ硬さのインキで地汚れせず印刷できるそうだ。オペレータが、朝のインキの硬さを体で覚えておき、昼もその硬さで調整する。その技術を身につけておけば、地汚れという注意点が減り、ゴミやベタ刷りのトラブルだけを気をつければいい、とのことだ。さらに一年を通じて同じインキを使用できることは、季節によるインキ交換や在庫管理の手間が省ける。

「現場にはパウダーをできるだけ使わないことを方針として指示しています。仕事によってはパウダーなしにもしています。掃除時間が減ったこと、印刷物の乾きが早くなったことで、より短納期ができるようになったことがメリットです。経営の視点からでは、もっとインキの価格が下がるといいですが(笑)」(藤森社長)。

メーカーによるとキレイナは、水なし印刷での採用が急速に増えているという。水なし印刷の成功には、版面温度の管理が重要だが、そのためには機械メンテナンス、印刷室の温湿度管理が重要となる。従来より安定して水なし印刷を行っており、それらをクリアする技術のある印刷会社だからこそ、キレイナアルポの性能をより引き出し、効果的に使用しているのだろう。環境と品質を両立させ、日頃から技術を磨く同社のような企業にとって、より満足できるインキとしてキレイナアルポのさらなる進化が期待される。(つづく)

革新的なパウダーレスインキ「ベストワンキレイナ」

BESTONE  
**KIREINA**

2016年度グッドデザイン賞を受賞しました。

GOOD DESIGN  
AWARD 2016

T&K TOKA

株式会社 T&K TOKA <http://www.tk-toka.co.jp>  
TEL 049-258-1611(代表) 埼玉県入間郡三芳町竹間沢283-1 〒354-8577